

発表演題 「地域の特性を活かした医療介護連携を考える
～寄り添うケアを目指した社会資源の活かし方～」

特定非営利活動法人どりーまぁサービス 理事長 山口浩志

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができることを目指す地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みが、各地で進んでいるが、キーワードは、「人づくり」と「地域づくり」であると考える。そこで、地域支援事業にさしかかる前の平成21年～23年にNPOの立場として、地域づくりのきっかけになるべくサロン事業（4市7ヶ所）と、サロンコーディネーター養成事業を「支え合い体制づくり事業」の交付金を活用して実施し、県内市町村や地域包括支援センターへモデル事業を検証し発信した。

それまでは、有償ボランティアと介護保険事業の事業展開であったが、本モデル事業実施にあたり、地域の特色やそれぞれに違った力があることを学ぶきっかけともなった。

また、自社での在宅支援利用者の中で、重度障がい児やALS患者に対して、公的支援と合わせてインフォーマル支援でのサポート実践事例での様子とそのための周囲の理解と協力体制の重要性をまとめてみた。

次に、高齢者住宅入居者の中で、自宅へ帰って住み慣れた地域で暮らしたい、という高齢者夫妻の思いを実現するために、施設から在宅復帰する過程での医療との連携事例を紹介し、個別支援のあり方についても検証してみた。

そして、このような現場で実践する中で抱える課題のひとつに、自社だけでは個人の思いを叶えることはできないが、他のNPO団体や医療福祉事業者と協力しあうことで可能性が広がると考えらえる。そこで、NPOの仲間や社協の人たちと協議し設立した、「とくしま住民参加型在宅福祉サービス団体連絡会」の活動を紹介する。本団体としては、県社協や市町村社協との協働で地域の支え合い担い手養成講座が始まり、4年間実施してきた。このことで、地域の中で発生する課題に対しての担い手協力者の掘り起しや養成講座を通して、地域住民が集い、それぞれに抱える課題について話し合える場づくりへの活動を紹介した。

これらのことから、地域には個別課題と地域課題それが埋もれているが、課題解決に向けて前進していくためにも、「地域づくり」と「人づくり」が要となる。またそれらの取り組み方法はひとつでなく、いろいろな場で様々な形での取り組みがあつていい、ということを行われている実践事例を通して実証されている。

そしてそれら全てが地域包括ケアシステム構築の目指すところであることを信じてやまない。



ささえ愛コーディネーター育成



子どもクリスマス会



徳島市元気高齢者づくり事業



ALS 患者さんの外出支援



ささえあい担い手養成講座



住サ連サロンサミット